

コロナ禍の地域とソーシャルワークを問う

～変わること、変わらないこと、変えてはならないこと～



開催日時：2021年9月26日(日)
9：00～16：00

開催方法：ライブオンライン開催

1. 基調講演 「地域とソーシャルワークを問う～政策の観点から」

演者：棕野 美智子

松山大学 人文学部 教授

(一社)日本保健医療社会福祉学会 会長

2. シンポジウム コロナ禍の地域とソーシャルワークを問う

～変わること、変わらないこと、変えてはならないこと～

座長：宮崎 清恵（神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授）

シンポジスト：(発言順)

白野 倫徳（大阪市立総合医療センター 感染症内科 副部長）

丸山 秀幸（馬場記念病院 医療福祉相談室 室長・ソーシャルワーカー/
ペガサスイキいきネット相談支援センター CSW）

榊原 次郎（医療法人樟立会たちかわ脳神経外科クリニック ソーシャルワーカー）

中 恵美（金沢市地域包括支援センターとびうめ センター長・ソーシャルワーカー）

指定発言者：棕野 美智子

3. 自由研究発表

座長：保正 友子（日本福祉大学 社会福祉学部 教授）

参加申し込み（ホームページまたは下記URLからお申し込みください）

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf5llwVtvnAZHbm3SALIrkwbxCX4WAMjnK2OKmN6J9451Nzpw/viewform>

※参加費：会員2000円 非会員3000円 学生1000円

※事前申し込みいただいた方のみ抄録配信のうえ、視聴可能といたします。

基

調講演

概要

政策実現にはタイミングがあります。

今後、コロナ禍でとられた様々な特例措置のあるものは残り、あるものは廃止され、また加わるものもあり、恒久的な政策体系へと再編されていくでしょう。間違いなく、今はマクロのソーシャルワークを展開すべき一つのタイミングです。

そのためには、制度についての理解を深めることが重要です。それは、今ある制度の形を理解するだけでなく、制度の理念、つまり制度設計の思想と政策の手法を理解することです。

ここでは、近年の福祉政策における地域とソーシャルワークの重視を戦後の歴史を追いながら概観した後、地域共生社会につながる最も新しい制度である生活困窮者自立支援制度を題材に、制度の理念の変化、制度とソーシャルワークの新たな関係について話します。



シ

ンポジウム

概要

厳しい医療状況にある大阪府で重症・中等症のコロナ患者を受け入れてきた病院の医師と、地域も所属機関もさまざまに異なる保健医療分野の3人のソーシャルワーカーにご登壇いただきます。

コロナ患者の直接的受け入れの有無にかかわらず、コロナ禍によって地域の保健医療現場にもたらされているさまざまな社会課題と、それへのソーシャルワーカーの取り組みが語られます。

さらに、基調講演の演者も加わり、With/Afterコロナのよりよい社会を実現するために変わるもの、変わらないもの、変えてはならないもの、そして変えなければならないものを政策とソーシャルワークの両視点から議論します。